留学レポート

中国留学を終えて

教育学部　総合人間形成過程　国際理解教育コース　４回生　松本寧々

私は３回生の後期から一年間、中国北京の中央民族大学での交換留学を経験ました。そこでの経験や学びについて報告いたします。

１、留学に至った経緯

以前から海外プログラムに参加する中で、世界中どの国でも中国人が生活しているのを目にし、中国経済の成長とグローバル社会においての中国語の需要を強く感じたため、中国語を習得したいと思った。また、愛媛大学の協定校が比較的多くあり、単位交換に加え、奨学金制度もあることから、最終的に留学を決意するに至った。

２、中央民族大学を選んだ理由

中国には他にもいくつか提携校があった中で、北京の中央民族大学を選んだ理由は主に二つある。一つ目は、北京で話される言葉が比較的標準語に近いからである。中国は、世界４位という広大な国土に５６以上もの民族が暮らし、その土地それぞれに全く異なる方言が存在するという少し特殊な国である。その中で、どの土地の人でも分かるいわゆる「標準語」というものが存在し、テレビなどでは一般的にこの標準語を用いた会話が放送される。私が中国語を勉強する上で目指したのは、一つの土地の言語に特化してその土地のネイティブと親密な関係になることよりも、台湾も含めた中国全土の人と意思疎通ができるようになりたいという思いが強かったため、言語がより標準語に近い北京での留学を選んだ。二つ目は、高度経済成長期である今この時期に、首都北京での生活を体験してみたいという思いがあったからである。私は年代的に日本の高度経済成長期を経験したことがないため、隣国がそのような状況にあるちょうど今、留学に行けるのはとてもラッキーなことだと思った。そして首都での生活を経験することで、急速な発展の様子を実際にこの目で見てみたいと思い、北京の大学に行くことを決定した。

３、現地での生活

現地での生活は、留学生寮に入り、他国からのルームメイトと生活を共にした。総留学生数が比較的少ないため全員の関係が良好で、また、学校周辺や近場にあらゆる施設が充実していたため、休日はよく遊びに出かけた。また、日本に比べ食べ物の物価が安いのに加え、学校の食堂は更に安く、毎日学食か近場の飲食店で食事を摂ることが多かった。ちなみに、民族大学の学食は北京でも有名らしく、計５つの食堂の中であらゆる地域・民族の料理を味わうことができた。

４、授業について

クラスはレベル別に約９つの班に分かれており（一番上が９班）、これらは学期初めのレベル分けテストを元に決定される。私は前期５班、後期８班だった。授業内容はクラスレベルに合わせた教科書を用い、「総合」「スピーキング」「リーディング」「リスニング」「作文」がだいたい週３回３科目、週２回２科目ずつ行われ、それに加え週２回の中国人の教育者を目指す学生による補修もあったため、習った知識をアウトプットする機会もあり、言語学習においてとても充実した環境だった。授業はすべて中国語で行われた。

５、語学レベルについて

３回生から突然思い立ち中国語の勉強を始め、３回生前期のみ一回生の初修外国語の授業を受けた。留学当初は全く聞き取れず、話せないという状況だったが、約 4 か月で HSK（中国語能力試験）５級を取得。後期はコミュニケーションに重点を置き、友達との交流や交流会などのイベントに多数参加した。現在 9 月の HSK6 級受験に向けての勉強に取り組んでいる。

６、楽しかったこと・辛かったこと

（楽しかったこと）：今回の留学は長期だったにもかかわらず、基本的にあまりストレスを感じず、毎日がとても楽しかった。それは周りの人間に恵まれていからだと思う。民族大学には世界各国から留学生が集まっており、その留学生たちは全体で仲が良く、週末ごとに遊びに行ったりご飯に出かけたりした。また、先生方も生徒との距離が近く、常に生徒を気遣い親身になって相談に乗ってくださった。中国人学生の友達はみなとても親切で、助けを求めると必ずこちらが望む以上のことをしてくれ、その優しさに毎回感動した。また、私が一番ありがたいと思ったことは、彼らが私たち留学生を下に見ることなく、同じ立場の人間として接してくれたことだ。これは簡単なようで意外と難しいことで、特に日本では、文化的に外国人を特別扱いしたり、どうしても壁ができたりしてしまいがちだが、この留学中自身が留学生という立場にいて、これを感じたことはほとんどなかったように思う。このような良い環境の中で毎日過ごせたことで、これまでに経験した海外での生活に比べストレスをあまり感じることなく、私の留学生活はより楽しく有意義なものになった。

（辛かったこと）：辛かったことを強いてあげるとすれば勉強だと思う。この留学は比較的短期間のうちに決断したものだったため、留学当初語学レベルが十分でなく、全て中国語で行われる授業についていくのが難しい状況だった。そこから猛勉強をはじめ、授業の予習復習に加え、深夜まで教室に残り勉強を続けた。なぜこんなにも頑張れたのかというと、周りの中国人学生たちはそれを当たり前のようにこなしていたからだ。ここに日本の大学との差を感じ、自分も頑張らなければという気持ちになった。

７、この留学で学んだこと

この留学を経験して、語学を習得すること以外にまず人として大きく成長できたと感じている。

まず一つ目に、近くて遠い国中国という国を深く知ることができた。それ以前、日本で生活している中で中国に関心を持ったことがなく、そのイメージの大部分が日本メディアからの情報により構築されたものだった。しかし実際に現地で生活してみると、中国人の国民や文化・習慣、良い面もそうでない面も合わせて知ることができ、自身の小さかった視野がぐっと広がった。そして、その自分で実際に体験した情報をもとに、根拠を伴った判断できるようになった。

二つ目は、度胸がついたことだ。この一年間で、日本にいればありえないような状況に何度も遭遇した。例えば、タクシーでのぼったくりや、ツアー内容が契約時と違う、ホテルの部屋が予約時と異なるなど、ありとあらゆるトラブルを経験した。しかしその都度「それはおかしい」「こちらには抗議する意思がある」ということを相手にしっかり伝えなければならないため、きちんと意思を表示することの大切さを身をもって実感した。

これらのことは、そのまま日本で暮らしていては身につかなかっただろうものだと思う。様々なことを知り、学ぶことができ、経験してよかったと心から感じている。

８、まとめ

今回の留学を通して、たくさんの人と出会い、たくさんのかけがえのないものを得ることができた。

３回生時に突然中国語を始めたこと、実際に中国に住んでみたこと、積極的に活動に参加してみたことなど、これらひとつひとつが貴重な経験として今後の人生にいきてくると確信している。

（最後に…

この留学に際しお世話になった国際連携課や愛媛大学の先生方、その他サポートをしてくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。）